

DIAGNOSTIC TOOL

操作ガイド

HDM-10000

特殊機能「DPF」による DPF 強制再生/いすゞDPD 編

注意事項/必ずお読みください

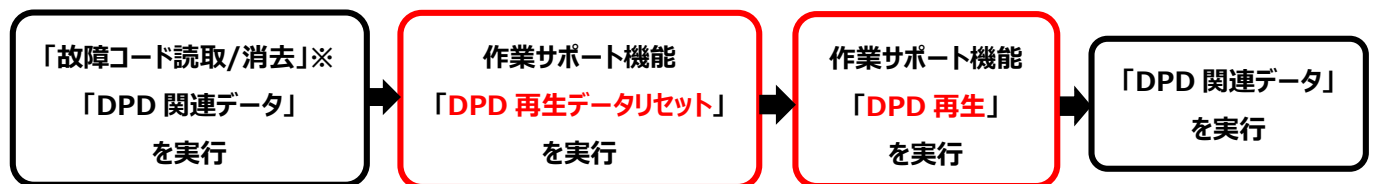
- 本書は日立ダイアグノスティックツール HDM-10000 用診断ソフトの診断機能の操作方法、活用事例について紹介するものです。自動車メーカー発行の整備解説書を代替するものではありません。
- 実際の作業にあたっては必ず自動車メーカー発行の整備解説書で正式な作業手順、注意事項をご参照のうえ、作業を行ってください。
- 自動車メーカーにより予告なく車両の仕様が変更されるため、本資料で紹介する機能が使用できない場合があります。

1.DPF 再生を実施する場合の操作方法について

HDM-10000 では下記(1)(2)のいずれかで DPF 再生を行うことが可能です。なお、(1)(2)ともに DPF 再生は車両状態により 30～60 分程度かかります。

(1) 特殊機能「DPF」から行う場合

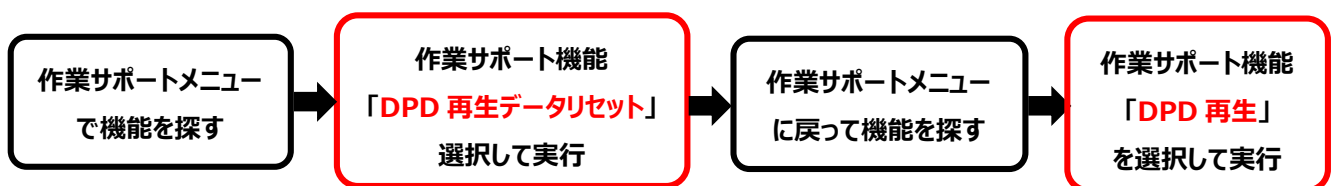
HDM-10000 の特殊機能「DPF」は下図の様に DPD(いすゞでの DPF の呼称)の再生に関連する診断機能と作業サポート機能を連続して実行することができるので、作業サポートメニューに戻る操作を省略することが可能です。定期点検や車検時に DPD 再生が必要な時にご活用ください。



※「故障コード読取/消去」で消去ができない故障コードが記憶されているときは車両破損などを防止するため、本機能による DPF 再生は中断されます。その際は、いすゞ診断ソフトで故障コードの確認、不具合箇所の点検と修復を行ってください。

(2) いすゞ診断ソフトの作業サポートメニューから行う場合

通常、2つの作業サポート機能を使用します。下図の様に作業サポートメニューで機能を選択する操作が必要です。



(次ページに続きます)

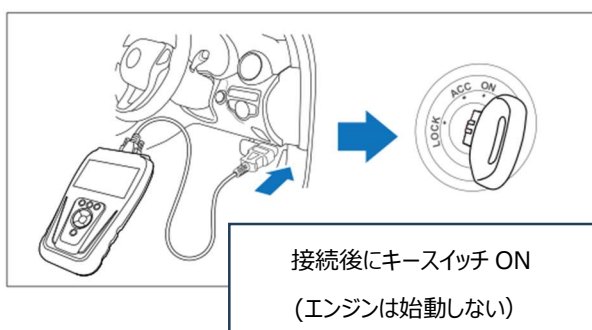
2. 特殊機能「DPF」による、いすゞDPD の再生手順

【特殊機能「DPF」の使用にあたっての注意事項】

- ①換気が十分に行える安全な場所に車両を停止させてから実行してください。
- ②DPD 再生中は排気管周囲が高温になります。排気管回りに可燃物が無いか確認してください。
- ③シフトレバーがニュートラルであることを確認してください。(AT 車は P レンジ)
- ④パーキングブレーキをかけてください。
- ⑤アイドルストップ装着車はアイドルストップスイッチを OFF(解除)してください。
- ⑥PTO 装着車は PTO の作動を停止させてください。

【手順 01:HDM-10000 の車両への接続から特殊機能の起動まで】

- ①HDM-10000 を車両側診断コネクタに接続してください。HDM-10000 が起動します。
- ②車両側キースイッチを ON にしてください。
- ③HDM-10000 メニュー内の特殊機能を選択して ENTER キーを押してください。



【手順 02:DPF の起動からメーカー選択まで】

- ①特殊機能が表示されます。「DPF」を選択して ENTER キーを押してください。DPF の画面が表示されます。



- ②画面の右側の一覧で「いすゞ」を選択して ENTER キーを押してください。



(次ページに続きます)

【手順 03:対象年式の選択から車両情報の表示まで】

- ①「対象年式」の選択が表示されます。該当する年式を選択して ENTER キーを押してください。次に「コネクタ選択」が表示されたら「OBD II コネクタ」を選択してください。



- ②「車両選択」が表示されます。「自動検出」を選択して ENTER キーを押してください。画面に「しばらくお待ちください。」が表示されたあと「車両情報」が表示されます。



【手順 04:車両情報から DPD メニューまで】

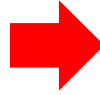
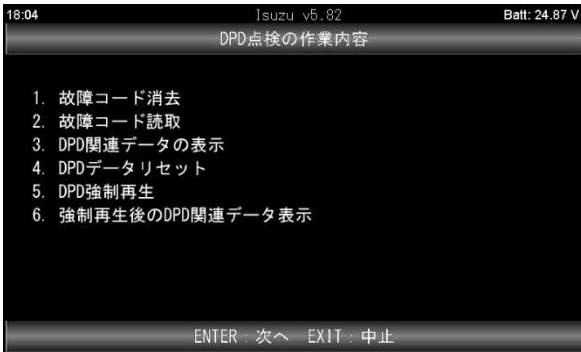
- ①「車両情報」の表示内容が現在 HDM-10000 を接続している車両と合致しているか確認してから ENTER キーを押してください。「しばらくお待ちください。」が表示されたあと「DPD メニュー」が表示されます。「DPD 点検モード」を選択して ENTER キーを押してください。



(次ページに続きます)

【手順 05:DPD 点検の作業内容の表示から DPD 再生データリセットまで】

- ①「DPD 点検の作業内容」が表示されたら ENTER キーを押してください。次に「DPD 点検モードを開始します」が表示されたら ENTER キーを押してください。

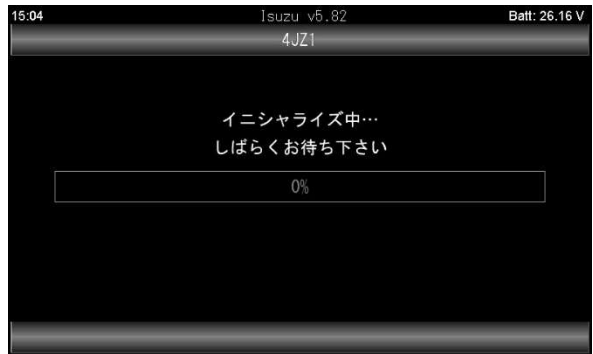


- ②「イニシャライズ中・・・しばらくお待ちください」が表示されます。

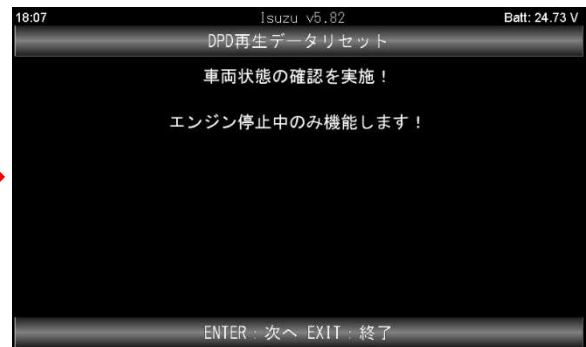
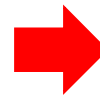
この時、故障コードの消去と読取を行っており、「自己診断の消去中」と「自己診断中」のメッセージも画面に表示されます。

故障コードの消去が完了すると「DPD 関連データモニタ」が表示されます。

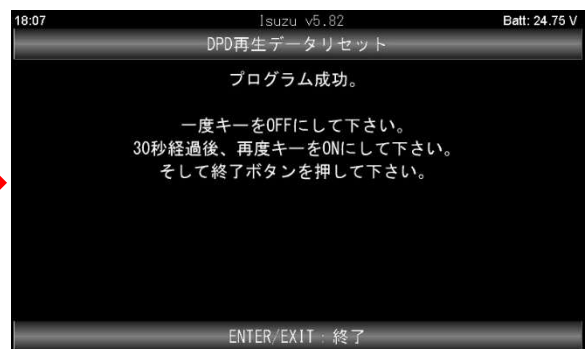
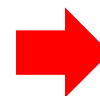
※故障コードの消去ができない場合の表示については
6 ページの注記を参照ください。



- ③「DPD 関連データモニタ」が表示されたら画面下部の「次へ」(白矢印で示す箇所)の色が赤色に反転していることを確認してから ENTER キーを押してください。「DPD 再生データリセット」が表示されますので、車両がキーON の状態であることを確認してから ENTER キーを押してください。



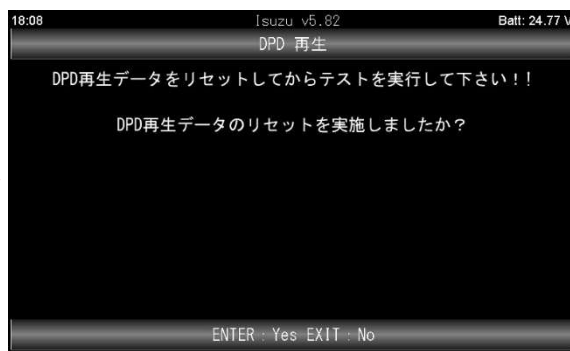
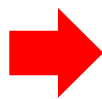
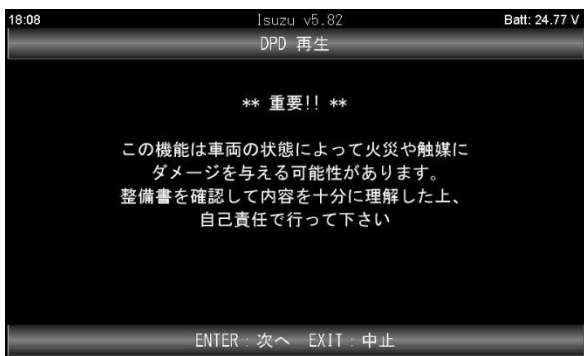
- ④「データをリセットしますか？」が表示されたら ENTER キーを押してください。DPD 再生データリセットが成功すると「プログラム成功」が表示されます。表示の内容にしたがって車両の操作を行ったあと ENTER キーを押してください。



(次ページに続きます)

【手順 06:DPD 再生の実行/浄化判定まで】

①「重要!!」の画面に表示されている内容を確認して ENTER キーを押して、次に表示される内容も確認したら ENTER キーを押してください。



②「車両状態の確認を実施！」が表示されたらエンジンを始動して ENTER キーを押してください。次に「DPD 強制再生」の画面が表示されますので画面の表示にしたがい車両側の DPD スイッチを押してください。



③DPD 強制再生が開始されます。エンジンが暖気されていない状態で開始した場合は画面下部に「暖気中です暖気終了後、再生実行します」がしばらく表示されたあと「再生中」に切り替わります。



④再生がしばらく進むと画面下部の表示が「再生中(P)」に変わり、その後に「浄化判定中。エンジン回転数を2000rpm に設定してください！」が表示されたらエンジン回転数を2000rpm まであげて保持してください。



(次ページに続きます)

【手順 07:DPD 再生の実行/終了までの操作】

①「待ってください!アイドルスピードでエンジン作動!」が表示されたらエンジンをアイドル回転数に戻してください。画面下部に「終了」が表示されたら ENTER キーを押してください。

Isuzu v5.02		Batt: 26.47 V
DPD強制再生		
DPD モード		20
排気温度1 (フィル前)	605 °C	
排気温度2 (酸化触媒前)	280 °C	
DPD排気差圧	0.91 kPa	
エンジン回転数	618 RPM	
待って下さい!アイドルスピードでエンジン作動!		



Isuzu v5.02		Batt: 26.40 V
DPD強制再生		
DPD モード		30
排気温度1 (フィル前)	570 °C	
排気温度2 (酸化触媒前)	265 °C	
DPD排気差圧	0.95 kPa	
エンジン回転数	599 RPM	
終了		

②「イニシャライズ中しばらくお待ちください」が表示されたあと「DPD 関連データモニタ」が表示されます。画面下部の「終了」(白矢印が示す箇所)が赤色に反転していることを確認して ENTER キーを押して完了です。

Isuzu v5.02		Batt: 26.34 V
DPD関連データモニタ		
DPD モード		30
排気温度1 (フィル前)	560 °C	
排気温度2 (酸化触媒前)	260 °C	
DPD排気差圧	0.89 kPa	
エンジン回転数	600 RPM	
冷却水温度		
終了 データ保存 印刷		



Isuzu v5.02		Batt: 26.35 V
DPD点検モード		
全ての作業が完了しました。		
ENTER/EXIT : 終了		

【注記:消去ができない故障コードが検出された場合の動作について】

4 ページの手順 05 の②で「イニシャライズ中……しばらくお待ちください」が表示されているときは同時に故障コードの消去と読取を行っており、消去ができない故障コードを検知したときは車両破損などを防止するため、下図㉗を表示して DPD 再生を中断し、以後、故障コードが消去されるまでは DPD 再生の実行を停止します。

下図㉗が表示されたら、下図㉘～㉙に進み、消去できなかった故障コードの確認と、いすゞ診断ソフトによる故障コードの確認、該当箇所の診断と整備、故障コードの消去を行ってください。

㉗



ENTER/EXIT : 続行

ENTER キーを押す

㉘



ENTER : 詳細 EXIT : 戻る

ENTER キーを押す

㉙



EXIT : 終了

EXIT キーを押して HDM-10000 を再起動させて、いすゞ診断ソフトによる診断を行ってください。

(2025.2 発行)